

講義名	オ)異文化間コミュニケーション論		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

## 主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、多種多様な文化と接触する機会が増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な実践活動を実施することで、異文化の背景と価値観、考え方もつなぐとの共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。前期の授業では異文化間コミュニケーションの基礎理論に関する講義とゼミナール形式の演習活動の二つのアプローチを用いたオンデマンド型の授業を実施する。このコースは本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という目標を、異文化間コミュニケーションの理論と実践を通して達成することを主眼としている。

## 到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1)自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養える。
- (2)同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養える。
- (3)他者の見解を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養える。
- (4)グローバルな視点で物事を考えられる力を養える。
- (5)上記を踏まえ、本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という到達目標を達成する。

## 提出課題

授業資料視聴後に「学びと気づきの振り返りシート」を執筆し、期限までに提出する。登週の授業の準備としてその他の課題を提出する。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

受講生が執筆した「学びと気づきの振り返りシート」を匿名で教員が紹介し、コメントする。その他の課題がある場合は、提出された内容を統括し、授業中にスライドに提示しながら解説する。

## 評価の基準

- (1) 課題（振り返りシート、その他）（60％）
- (2) 最終レポート試験（40％）

## 履修にあたっての注意・助言他

この授業は本学なら、講義とグループワークにより実施する授業ですが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンデマンド型で実施します。授業日の授業開始時刻までに音声付(パワーポイント資料と適宜、その他の資料を「講義連絡」を通じて提示します。授業資料を、パソコン等の機器を使って視聴できるようにしておいてください。インターネットの接続も必要です。また、特定のスライドを見送りたい人のために、Pptに変換した資料も「講義連絡」に提示します。「振り返りシート」等の課題は、必ず、資料を視聴してから取り組んでください。授業内容の詳細に言及していないものは評価の対象にはなりません。振り返りシートの執筆方法については、第1回目の授業で説明します。

## 教科書

.使用しない。

## プリント資料及び参考文献

ハンドアウト資料およびその他の資料は、適宜、「講義連絡」を通じて提示する。

(参考文献)  
・L.A.サモイール、R.E.ポーター、N.C.ジェイン(1993)西田司、他訳、異文化コミュニケーション入門 聖文社  
・八代京子ほか(1998)「異文化トレーニング」三修社、石井敬ほか(2001)「異文化コミュニケーションの理論」有斐閣ブックス、吉田晴彦修(2001)「異文化コミュニケーション-新・国際人への条件」有斐閣選書、吉田晴彦ほか(2001)「異文化コミュニケーション・キーワード」有斐閣双書、八代京子ほか(2001)「異文化コミュニケーションワークブック」三修社、久米昭元、長谷川典子(2007)「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」有斐閣選書

## 授業計画

- 回 授業計画  
1 コースガイダンス：履修に際しての重要事項の説明とミニ講義（異文化間コミュニケーション発展の経緯）  
2 コミュニケーションとは（1）  
3 コミュニケーションとは（2）  
4 コミュニケーションとは（3）  
5 コミュニケーションとは（4）  
6 文化とは（1）  
7 文化とは（2）  
8 文化とは（3）  
9 文化とは（4）  
10 文化とは（5）  
11 知覚とカテゴリー化  
12 マスメディアとステレオタイプ（1）  
13 マスメディアとステレオタイプ（2）  
14 偏見と文化摩擦（1）  
15 偏見と文化摩擦（2）

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A型でもあるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習、および、その週の課題に取り組む。（約2時間）

復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）

## 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

異文化間コミュニケーションの理論を現代のグローバル社会で起きている問題に適用し、考察することにより、知識を知恵に転換することができる論理的思考力を身につけ、多様な視点の獲得により新しい価値を生み出す創造力を醸成する。また、国内外の人たちと円滑なコミュニケーションをとることができる素養を身につけることにより、卒業時に身につけておくべき資質・能力の育成につながる。これらの能力は留学部生に求められる資質の軸に強く関連する動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができるための基礎知識の獲得。経済学部生に求められる人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる力の育成、そして、人間社会学部生に求められる現業社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てるという理念の達成に役立つ。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された前回の授業に関する「振り返りシート」を授業中に教員が紹介し、コメントする。授業内容、その他に関する質問は随時、振り返りシートを通じて受け付け、授業中に回答する。

## 実務経験の有無及び活用

## 備考

再掲しますが、音声付きパワーポイント資料を使って、オンデマンド型授業を実施しますので、パソコン等で視聴できるように準備をしておいてください。提出物はすべてWordファイルで提出してもらいますが（それ以外は受け付けません）、教材はパワーポイント資料、PDF等をRyuka Portalの「講義連絡」に提示します。課題の提出は非常に重要です。その他、授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行うので必ず確認してください。